

R8 ティーaching・ポートフォリオ

山村学園短期大学 子ども学科

教授 高後 仁

1 教育の責任

令和8年度の担当科目

科目名	学期	対象学年	種別	受講者数	備考	
子ども学ゼミナールⅠ	前期	2年	演習	10名	1・2組	
保育・教育課程論	前期	2年	講義	45名	1・2組	
保育内容 環境の指導法	前期	2年	演習	45名	1・2組	
保育内容環境	前期	1年	演習	46名	1・2組	
教育原理	後期	2年	講義		1・2組	
教育方法・技術論	後期	1年	講義		1・2組	
保育・教育実践演習（幼稚園）	後期	2年	演習		1・2組	
SDGsと教育・保育	後期	1・2年	演習		1・2組	
保育・教職論	後期	2年	演習		1・2組	

授業の充実

- ・ 楽しく、身につく授業
学生の反応、提出資料の内容を根拠とした授業方法の改善
- ・ 学ぶ意義と現場での必要感が高まる授業
短大の学びと実際の保育・教育の関連の明確化
- ・ コンプライアンスとアカウンタビリティへの意識が高まる授業
根拠法令等との関連、教育・保育を行う際の説明責任の重要性の伝達

研究活動の推進

- ・ 地域素材を保育に生かす研究の推進
- ・ 保幼小のスムーズな連携に関する研究の推進
- ・ SDGs と保育に関する研究の推進

地域貢献活動

- ・ 日本宇宙少年団さいたま支部 副支部長
- ・ 鳩山町放課後子ども教室運営委員
- ・ 鳩山町地域見守り支援ネットワーク代表者会議
- ・ さいたま市立公民館 主催講座講師（R83 講座予定）

2 教育の理念

学びたい子どもがいる、教えたい大人がいる、そこに学校ができる。学校は子どもにはもちろん、そこで働く教職員にも、保護者にも地域の方々にも楽しい場所でなければならない。これが私が30年以上かかわってきた初等教育における教育理念である。この理念を高等教育においても同様に掲げていきたい。学生は目的をもって本学を選択し、通学している。長年初等教育にかかわった経験と日々の研究、研修を活かし、学生の意欲に応え、質の高い楽しさを提供していきたい。

（1）学科長として

学科目標を

- ①建学の精神「質実・英知・愛敬」を踏まえ、保育単科の短大として質の高い社会人・保育者の養成を実現する。高い理想を持ち、保育の専門性と豊かな人間性を兼ね備えた保育者を輩出する。
- ②進路指導を充実させ、就職率100%に向けて努力する。保育への情熱と使命感をもって学生を育て、地域社会に貢献できる子ども学科を構築する。

とし、具体的には「個別の学修サポート計画を活用した、学生一人一人の自己実現に向けたサポート体制の一層の充実」「2年間を見通したキャリアアップセミナーと進路ガイダンスの連携等により、出口（進路・就職活動）の一層の充実」「本学の特徴である体験的学びの質の向上（意図的・計画的な取組）により、保育者としての資質や専門性を一層向上させる」等により目標達成に努める。

（2）教務・FD 委員長として

令和6年度より教務・FD 委員長を務めている。令和7年度、教育課程の大きな変更点としてSBD（セルフ ブランディング デイ）の創設があった。令和7年度に入学した1年生より月曜日を自分自身のために使える日として、原則授業を計画しないこととした。SBDを意義ある時間とするために、教務・FD 委員会を中心に、質と量を維持した上で月曜日に授業を計画しないカリキュラムを編成した。具体的には各学年前期・後期1授業の集中講義（集中講義実施期間を2週間設定し、その期間に授業を実施する）の実施、授業

回数の平準化（１単位授業１２回、２単位授業１５回）に取り組み、今年度より完全実施となった。今年度は新たなカリキュラムの完成年度となるが、授業公開・FD研修会の充実、授業アンケートの活用を中心に、量の確保はもちろん、質の維持・向上に向けて組織的に取り組んでいく。

（３）授業担当者として

２０１７(平成２９)年３月に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂・告示され、平成３０年４月から施行された。幼稚園だけでなく保育所、幼保連携型認定こども園とも幼児教育の一翼を担う施設として、教育に関わる側面のねらい及び内容に関して、前記３つの要領や指針の整合性が図られた。そして幼児教育において育みたい資質・能力が示されたこと、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が明確化されたこと等、多くの新たな方向性が示された。幼稚園教諭、保育士の養成を掲げる本学においては、改めて幼児教育の重要性を認識し、日々の授業の充実に努めなければならないと考える。

そこで、以下の３つの方策をもって本学の教育活動の充実に寄与し、自身の教育理念の実現に取り組んでいきたい。

《保育内容 「環境」の充実》

１人ひとりの子どもにとって環境は、

- ・地球環境、自然環境、生活環境、家庭環境といった「広い意味での環境」、
- ・保育環境、園庭環境、物的環境、人的環境そして環境構成といった「場所や空間、物や人としての環境」、
- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に５つの領域の一つとして位置づけられている「領域としての環境」

に大別できる。保育内容「環境」を指導する際に、「広い意味での環境」を子どもとともに意識し、「場所や空間、物や人としての環境」を整え、「領域としての環境」に示された内容を経験させることができる保育士の育成に努めたい。そのために、３つの要領や指針における環境の位置付けや、不足がちと言われる原体験、その中で本学の豊かな自然環境をどう生かしていくかを追究し、授業に反映させていく。

《小学校教育との円滑な接続に向けて》

「小１プロブレム」という言葉が使われるようになって久しい。平成元年度の小学校学習指導要領改訂で生活科が新設された根拠の一つにも上げられる。保幼小の連携、そして円滑な接続については前記した３つの要領や指針にも示されており、幼児教育の重要な課題の一つである。具体的な方法として、指導の工夫、児童と幼児の交流、教職員の連携・協力、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの作成・実施等があげられるが、私自身、初等教育において様々な事例を経験してきた。現状や考えられる対応に加え、私自身が経験してきた事例や効果的な方法を学生に伝えていきたい。その際に、保育者とし

てどのような対応が考えられるか、学生に考えさせる時間を確保し、そのうえで、具体的な事例、参考例を伝え学びを深める手続きとしたい。

《「SDGs と教育・保育」の充実》

令和5年度開講した「SDGs と教育・保育」。新規講座として2年の準備期間を経ての実施となった。内容は「基礎的な知識の学習」「地域の特徴・文化を体験する」「地球の現状を知る学習」「将来に生きる調査・研究」の4部構成で実施する。

SDGs を意識した保育は各地で実践されているが、その内容、方法は様々である。保育者自身が基本を学び納得する、現状を知り必要感をもつ、自身の生き方や保育に生きる工夫を研究する、といった展開を目指したい。

本講座の充実に向けて「SDGs に関する専門家の招聘」「地域の専門機関との連携」「学生の主体的な調査・研究時間の確保」を具体的な方策として実施していく。その中で、本学を選出した学生の多くが高い関心をもっている「自然環境の保全」に関する内容で多くの調査・研究を進めていきたい。また過去2年間で先輩が実践した調査・研究についても周知し、その継承も意識して取り組ませたい。

3 教育の方法

(1) 子ども学ゼミナールⅠ～地域素材の教材化に関する研究～

【ねらい】

クラスやゼミナールでの活動を通して、保育の専門的知識や技能、多様な教養を学習し、現代社会を取り巻く現状を捉える力を養う。さらに自らが職業人として必要な課題を見出し、分析や考察したことを他者へ表現する方法を学ぶ。その上で、主体性をもって多様な人々と協議して学ぶ態度を身に付け、保育者としての情熱と使命感を養う。

【到達目標】

ゼミナール等での活動に主体的に取り組み、得たい知識や技能を自発的に獲得できる。

職業に対する求められる態度、マナー、コミュニケーションを理解し、行動に示せる。

多用な体験や様々な他者との関わりを主体的に受け止め、肯定的、建設的に物事を捉え、体験や関わりを価値あるものにしようとする。

(2) 保育・教育課程論

【ねらい】

幼稚園及び保育所における、カリキュラムを理解し、実際のカリキュラムに沿って指導計画が作成できる保育者としての専門的な知識・技能を養う。

【到達目標】

ねらいを達成するために、各カリキュラムについて理解し、保育士・幼稚園教諭として資質の向上と子どもたちのために、カリキュラムからしっかり指導計画の作成ができるようにする。

（３）保育内容 環境の指導法

【ねらい】

領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもつて関り、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科とのつながりを理解できる。

【到達目標】

幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができる。

（４）保育内容 環境

【ねらい】

幼児を取り巻くさまざまな環境や幼児と環境の関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。

【到達目標】

環境を通して行う教育・保育の基本を理解し、身近な環境との関りを具体的な生活事例（製作・遊ぶ活動）を通して実際に行い体験的に学ぶことができる。

環境を、広い意味や保育内容「環境」としての意味を理解し、具体的な体験・経験のなかで身に付けていく。

環境とは、領域「環境」とは、環境を通して行う教育・保育の基本を理解し、幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解することができる。

（５）教育原理

【ねらい】

教育の目的や意義・方法等について学習し、保育士・幼稚園教諭として必要な基本的な知識や考え方を習得する。

【到達目標】

教育の意義・目的について理解する。学校教育の歴史と制度について理解する。教育の制度について理解する。教育実践のさまざまな取組について理解する。教育の現状と課題について理解する。

（６）教育方法・技術論

【ねらい】

幼児期の学びは子どもを主体として、環境や遊びなどの経験を通して育まれるものであるということを理解する。幼児教育の方法を多面的に論ずることができるための基礎知識を養う。

【到達目標】

様々な教育方法とその特徴を説明することができる。幼児期の特徴に応じた教育方法につ

いて説明できる。

(7) 保育・教育実践演習（幼稚園）

【ねらい】

幼稚園教諭・保育士として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身につけるとともに、その資質能力の全体を把握する。

【到達目標】

学生が教員・保育者となるうえで、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を各自で図る。

(8) SDGs と教育・保育

【ねらい】

SDGs に関する知識や実践を学び、教育・保育の現場で生かせる実践方法を、自分たちで調査・研究し、構築することができる。

【到達目標】

SDGs の 17 の目標、観測データの大切さとそこから導かれる地球環境の現在を理解している。幼稚園や保育所をはじめ、様々な場で展開されている SDGs の実践をその意義も含めて理解している。研究の進め方を理解し、教育・保育で生かせる実践方法を獲得している。

(9) 保育・教職論

【ねらい】

保育士や幼稚園教諭を目指すために、保育者とは何か、今保育者に求められている資質や能力は何か、そしてその職務の内容等について、関連法規等を踏まえて検証することができる。

【到達目標】

保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）に対する意識を高め、その違いや共通点を明らかにし、さらに保育者としての専門性の高揚を図り、連携・協働の重要性を理解することができる。

4 教育の成果、評価

令和8年度前期定期試験前に学生に対して授業アンケート（EduNav i）を実施。

問1 ・欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。

・私語を慎んで授業を受けましたか。

・授業の要点を配布プリント等にとっていましたか。

・シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。

・予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。

問2 ・授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。

- ・授業内容のレベルは適切でしたか。
 - ・授業の進度（速さ）は適切でしたか。
 - ・この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。
- 問3
- ・教員の話し方は明瞭で聞き取りかったですか。
 - ・授業の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。
 - ・授業中の板書やプロジェクター（パワーポイント等）の利用は適切でしたか。
 - ・教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。
 - ・教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。
 - ・学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。
- 問4
- ・全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。
- 問5
- ・授業の感想を自由に述べてください。

（1）子ども学ゼミナールⅠ～地域素材の教材化に関する研究～

5. 0（満点）

問1 平均 4. 4 問2 平均 4. 5 問3 平均 4. 6 問4 平均 4. 5

問5 自由記述

- 好きな内容の研究に取り組むことが出来て楽しかった。
- 自然や地域素材を活かして色々なものができることがわかり、様々な発見や学びがあり、とても楽しかったです。
- 自分たちが主体となって活動を進めることができ、楽しかったです。また色々な実験をしたい。
- 子どもが安全に、興味をもって楽しむ活動を考えるのが難しかった。
- 身近な材料を使った製作が、子どもの情操にどのように影響するのか考えたい。

（2）保育・教育課程論

5. 0（満点）

問1 平均 4. 4 問2 平均 4. 3 問3 平均 4. 5 問4 平均 4. 4

問5 自由記述

- 教育・保育課程やその立案する意義などを具体的に学ぶことができた。
- 学ぶ量が多いので集中ではなく、半期かけてゆっくり学びたかった。
- 知識を多く学べたが、それをどう生かすか、実際の指導計画作成にどうつなげるか、については不十分と感じた。またアクティブラーニングの要素をより取り入れてほしい。
- 最初は難しいと感じたが、毎回前時を振り返る時間があり、そのたびに復習できたのでよかった。

○保育・教育に必要な知識を沢山学ぶことができました。

○書く量が多かった。

(3) 環境の指導法

5. 0 (満点)

問1 平均 4. 4 問2 平均 4. 6 問3 平均 4. 7 問4 平均 4. 6

問5 自由記述

○毎回の丁寧な準備と対応、授業内での先生の対応を見て、多くの事を学びました。

○実際に自分たちで植えて、育てて、食べるところまで行う事、たくさんの学びがありました。保育現場で生かしていきたいです。

○野菜の栽培や資源を使った遊び、エコについてのかるたなど、実際に遊びとして楽しんだり野菜を育てるところから食べるところまで様々な体験を通して、環境を利用した楽しみ方を身をもって体験しました。目的や具体的な指導における留意点やコツなども丁寧に説明して頂いたので、現場でも活かして行きたいと思います。楽しい授業をありがとうございました！

○野菜のことだったり、鳥、虫沢山知ることができて楽しかったです！ミニトマトがぶどうの味して衝撃。あまい。ナスピーマンシシトウおいしかたなあ。

○言葉が乱暴で、やれ、こい、といった言葉にイラッとしました。

○講義と、製作、ファームに実際行ってみての演習があり、楽しくてとても好きな授業で、毎週金曜の1限が楽しみでした。講義で学んだことを、ファームで実際に体験して学べるのはとても良かったです。楽しい授業の中で、楽しみながら、では子どもたちと取り組む時はどうするかを考える中で、指導者としての視点を学べたと思います。

(4) 保育内容環境

5. 0 (満点)

問1 平均 4. 5 問2 平均 4. 6 問3 平均 4. 6 問4 平均 4. 5

問5 自由記述

○見ても素通りしていた自然にも名前があり、一つ一つを知るととてもいい機会になりました。子どもにとって身の回りの自然に触れ、知ることはとても大切なことなのだと学びました。今後の保育に役立てていきたいと思います。どうもありがとうございました。

○直接植物に触れながら授業を行っており、とても面白く、保育者になった時も子どもたちに直接昆虫や植物などに触れてもらいながら学べる活動を行ってあげたいと思いました。

○植物を外で実際に見たことで、名前と見た目を一致して覚えられた。昔遊びや

おもちゃ遊びを実際に体験することができ、楽しかった。

○ただ説明するだけでなく実際に実物を見に行ったり触ったりすることが出来て退屈しなかった。先生から気軽に話しかけてくれるところがうれしかった。授業中ふざけているうるさい生徒に対してもう少ししっかり注意をして欲しい。

○自然に対する知識がさらに高まったと感じます。また自然に関する魅力をもっと子どもたちに教えてあげたいと感じました。

○山短にあるいろんな草花や樹木を知ることができて楽しかったです。
たまにパワーポイントの字が見えない時があったので、少し大きくしていただけると助かります。よろしくお願いします。

《以下は令和7年度後期実施授業アンケートより》

(5) 教育原理

問1 平均 4.4 問2 平均 4.5 問3 平均 4.5 問4 平均 4.5

問5 自由記述

○歴史が面白かった。

○先生の説明がとてもわかりやすかった。

○動画がためになりました。

(6) 教育方法・技術論

問1 平均 4.5 問2 平均 4.5 問3 平均 4.5 問4 平均 4.5

問5 自由記述

○この授業を通して保育者がどのようなことを気にして保育を行っているのかなんとなくでしたがわかった気がしました。

○教育の方法、技術を考える基礎知識やICTの活用、指導計画、評価について勉強になります。

○授業の導入で自然についての話が興味深かった。

○書く量が多く、スライドのスピードが速い。

(7) 保育・教育実践演習（幼稚園）

問1 平均 4.4 問2 平均 4.5 問3 平均 4.5 問4 平均 4.4

問5 自由記述

○グループワークは大変なこともあったけど、実践的に学べてよかったです。

○現場でいかせることを学ぶことができました。ありがとうございました。。

○人間関係が辛くて授業出れなかった。一緒にグループで誰か一人でも話せる人がいれば欠席はなかったと思う。

(8) SDGs と教育・保育

問1 平均 4.6 問2 平均 4.4 問3 平均 4.6 問4 平均 4.5

問5 自由記述

○難しい課題を楽しく学べました！選択してよかったです。授業だけで終わらず、これからも生活の中で SDGs を意識することから継続していきたいと思いました。ありがとうございました。

○実際に人工衛星の施設に行ったり、自分たちでの調べ学習や研究を行ったりしたことでより深い学びになった。

○SDGs への理解を深めながら保育への応用について考えることが出来ました。

○もう少し調査、研究に対する助言が欲しかったです。

5 教育の改善に向けた今後の目標

(1) 子ども学ゼミナール I

短期的目標	○「地域素材」の概念をより明確にすることが今後に向けた改善の一つと考える。今年度、地域素材の解釈が「地域にある」「保育園・幼稚園にある」「身近な素材である」と広がりを見せたが、「地域素材とは何か」「保育現場等で活用できる素材とは何か」といった基礎となる概念を明確にすることで、現場で生きる研究・実践につなげていきたい。 ○研究・実践の成果をどのように活かしていくか、について議論を深める時間を確保する。自分たちで行った研究・実践はあくまで基礎研究である。それを保育・幼児研究の現場でどう活かしていくか、具体的な幼児の姿、組織やカリキュラムに基づいてどう実践していくか、議論を深め研究を進めることを本授業のゴールとしていきたい。
長期的目標	○短期的目標で示した「地域素材の概念の明確化」「研究・実践のゴールの見直し」に加え、「研究・実践方法の広がり」を目標としたい。各自が研究・実践を進めるにあたり、その方法の多くは書籍、SNSに限られ、一元的な見方の中での研究であったと感じる。地域に出向き、専門家に聞き、場合によって現場で実践させていただく、といった方法を今後の授業の中で取り入れられないか、研究を進めたい。そのために、協力機関、人材等を集め、学生に紹介できるよう取り組んでいきたい。

(2) 保育・教育課程論

短期的目標	○講義だけでなく、毎回プリントを作成し、記入・提出を求めることを継続してきた。特に提出されたプリントを翌週の授業で、評価したうえで返却することが効果的であった。今後一人ひとりに応じた評価、コメント等、学生がより達成感を味わえる評価方法を工夫していく。 ○講義の前半は各カリキュラムの必要性や特徴の学習に、後半は子どもの姿を想定しながら、カリキュラムから指導計画を作成する学習を進めてきた。このシステムを学生に伝え、継続することで、保育士・幼稚園教諭の資質の向上につながるものとする。 ○講義の速さ、パワーポイントの文字数、プリントへの記入量等を学生の声を生かし、改善するとともに、毎回授業開始時に前時の復習を行って来た。その成果は自由記述からも一定の成果が上がっているものとする。今後も学生の反応、意見を授業方法の改善に生かしていきたい。 ○シラバスに示した実践的な能力の習得（指導計画の作成）やその方法としてのアクティブラーニングの実施は不十分であったので次年度、確実に実施したい。
長期的目標	○なぜ各カリキュラムの必要性や特徴を理解しなければならないか、それが幼稚園や保育所でどう役に立つのか、効果的に伝え、学ばせる方法を研究していく。 ○法令等や各幼稚園、保育所の方針等を遵守する中で、幼稚園教諭・保育士が自分の資質や感性をどう生かしていくか、指導計画の作成時間をより多く確保し、具体例を踏まえて伝えることで、学生の学ぶ意欲も高めていきたい。

(3) 環境の指導法

短期的目標	○きめ細かな対応が功を奏していると思われる。例えば、毎回のプリント提出を受け、次回の授業で評価し返却。その評価を楽しみにしている学生も多い。さらに欠席者については提出プリントと資料を渡し、1週間以内に提出を求め、他の学生から遅れないよう励ましとしている。12回中出欠状況をチェックし、再度催促するとともに欠席回数やプリント提出が評価に大きく影響することをアナウンスしている。 ○出欠をとる際は、学生の顔をよく見て、時にはコメントを付け加え（例えば、プリントでいいに記入していたよ、前回欠席したのはどうして・・・等）この言葉かけが単なる返事よりも信頼関係を構築するうえで重要と思われる。
-------	--

長期的目標	○「環境の指導法」。生活科の意図している内容は一部引き継ぐ。 ○ 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科とのつながりを理解できる。 ○幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができる。
-------	--

(4) 保育内容 環境

短期的目標	○保育内容環境に関しては、令和元年度子ども学科より始まった新設科目。体験型で実物に触れる貴重な科目。本学の豊かな自然環境が活かせる科目として現在の取組を継続していく。 ○きめ細かな対応が功を奏していると思われる。例えば、毎回のプリント提出を受け、次回の授業で評価し返却。その評価を楽しみにしている学生も多い。さらに欠席者については提出プリントと資料を渡し、1週間以内に提出を求め、他の学生から遅れないよう励ましとしている。12回中、節目に提出状況をチェックし、再度催促するとともに欠席回数やプリント提出が評価に大きく影響することをアナウンスしている。 ○出欠をとる際は、学生の顔をよく見て、時にはコメントを付け加え（例えば、プリントていねいに記入していたよ、前回欠席したのはどうして・・・等）この言葉かけが単なる返事よりも信頼関係を構築するうえで重要と思われる。
長期的目標	○Think globally Act locally “地球規模で考え、足元から行動せよ” “思索は世界的に、行動は足下をしっかりと固めて” というように解釈されている。 SDGs（持続可能な開発目標）にもあるように、「水問題」「フードロス」「プラスチックによる海洋汚染」等環境問題の認識は多種多様で世界の国々や人々によっても大きく異なる。自然環境は価値が高く大切に守るべきものであるが、時として人間の経済活動のために過剰に使われがちである。それは人間が環境に対する知識・意識・情報が薄いまま、行動・生活をしていることに起因する。それを改善・解決していくためには、一人ひとりが問題を認識し、情報などを共有して行動することが必要である。つい「自分一人が行動しても変わらない」と思いがちだが、一人ひとりが行動を起こし、学校や会社、地域コミュニケーション

	を図ることで改善に向けて前進することができる。資源・エネルギーは有限である。その認識をしっかりととらえ、“もったいない精神”を常に意識し、資源のリサイクル、エネルギーの節約に努める学生の育成に取り組んでいきたい。
--	--

《以下令和7年度後期授業アンケートに基づく改善に向けた目標》

(5) 教育原理

短期的目標	○「協働的な学習場面」をより多く設定することを目標とする。知識の伝達や文言の理解に時間を割かれることが多いが、「なぜそのような概念や思想が生まれたのか」「なぜそのような制度が必要だったのか」等を話し合う時間を確保し、より深い理解への一助としたい。
長期的目標	○「個別最適な学習場面」「協働的な学習場面」のカリキュラムへの位置付けを長期的目標とする。協働的な学習場面については前記したが個別最適な学習場面の授業への取り入れ方についても研究を進め、両者を意図的・計画的にカリキュラムに位置付けていきたい。

(6) 教育方法・技術論

短期的目標	○導入と学習内容の関連を一層深めることを目標とする。季節に応じた自然事象に関する情報提供を導入としており、学生からの評価も高い。本取組を継続すると共に、導入で提供した情報が保育・幼児教育にどのように反映されているか伝えることで、学習内容との関連を一層深め、学習効果がより高まるよう取り組んでいく。
長期的目標	○「聞く」「書く」「考える」「調べる」等の活動毎の時間配分をより細やかに設定していくことを目標とする。学生によって「書く時間の設定」「聞く時間の設定」について評価が分かれた。個別最適な学習を意識し、適切なより時間配分を研究し、最終的に授業に反映させていく。

(7) 保育・教育実践演習（幼稚園）

短期的目標	○自分自身の課題と不足している知識や技能を明文化する時間を確保することを目標とする。壁面制作、指導案作成、ロールプレイ、3つの活動を行い、その中で自身の課題や不足している点に気付いてもらう授業となるが、明文化することで気付きは実践につながっていくものと考え
長期的目標	○壁面制作、指導案作成、ロールプレイ、3つの活動に関する評価基準をより明確にする。実践を通して学生が自覚することが目標になっているが、それを支援、指導するための基準、根拠が明確であると一層具体的で、学生のこれからに生きる指導ができるものとする。

(8) SDGs と教育・保育

短期的目標	○「座学」、「体験」、「アクティブラーニング」のバランスのとれた授業構成を目標とする。学生から比較的高い評価を得ているのはこの3者のバランスが適切であることが要因と考える。従来から3者で活動を構成しているが、さらに学生の思いを具現化できるよう、その精度を高めていく。
長期的目標	○年度をまたいで取り組む活動を見出し、本授業の特徴の一つとすることを目標とする。自由記述にも記されているとおり、複数年にわたって取り組んでもらいたい事例が示されている。継続すべき内容を精査し、本授業・本学の特色ある教育活動に位置付けたい。

6 その他

(1) ナチュラル保育検定への取り組み

保育士や幼稚園教諭に必要なことは、知識や技術だけではない。物事に興味をもつこと、「知りたい」という子どもに負けない好奇心を持ち、命の大切さや生きる力を育てることが大切である。本学の緑豊かなキャンパスに生きる動植物等を学び、自然に関する知識やあそびに関する保育技術の習得のために、「ナチュラル保育検定」を実施している。

- ・令和元年度よりテキスト（冊子）と合わせてスマホ対応で検索できる方法を導入。
- ・令和8年度についても第1回ナチュラル保育検定を6月18日に実施。第2回は11月26日に実施予定
- ・テキストについては、令和5年度版よりSDGsの視点を取り入れ一部加筆。
- ・令和5年度より木本名札を設置。QRコードを添えることでより簡便にデータにアクセスできるようにし、保育検定でも活用。
- ・令和6年度より記述式問題「私の一推し」を实践。学生がお気に入りの自然物・事象を記載させている。
- ・実施しての課題の一つに、複数回受検しても合格しない学生への指導があった。昨年度

から学生が作成した答案を採点后返却することを取り入れ、実施している。



SDGsの観点		SDGsの観点
 1. 持続可能な開発目標 SDGsの観点	1. 持続可能な開発目標 SDGsの観点	1. 持続可能な開発目標 SDGsの観点
	2. 持続可能な開発目標 SDGsの観点	2. 持続可能な開発目標 SDGsの観点



令和5年度テキスト

加筆ページ

木本名札

(2) SDGs ワーキンググループ 前担当者として

SDGs ワーキンググループは当初の目的を達成したため令和7年度末をもって解散したが、前担当者として以下の内容に継続して取り組んできた。

① 敷地内の環境整備

ファイアーサークルの運用、プロムナード周辺の緑化、腐葉土事業の実施
スズメバチトラップの作成・実施

② 学生の自主活動の支援

環境整備委員会の取組（落ち葉回収、定期的な清掃活動の実施）
どんぐり銀行事業⇒クヌギ牧場開設

③ 授業の展開

「SDGs と教育・保育」に授業計画の共有、新たな活動（鳩山窯跡群に関する学びと体験）の開発、関係機関との連携

④ 地域貢献活動・啓発活動

山緑祭への出展、体験活動の実施

どんぐり銀行に関する取組については、同銀行の活動停止を受け、学内でのクヌギ牧場開設へと転換。さらにニホンミツバチの養蜂事業、各種事業の学生への移譲の研究も進めており、可能な事業から実施していく計画である。

7 エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス（子ども学ゼミナールⅠ、保育・教育課程論、環境の指導法、保育内容環境、教育原理、教育方法・技術論、保育・教育実践演習（幼稚園）、SDGs と教育・保育、乳児小児救命法）
- (2) 授業時配布プリント
- (3) 試験問題

- (4) 成績集計結果
- (5) 授業アンケート
- (6) ナチュラル保育検定
- (7) **SDGs** ワーキンググループ引継ぎ資料